

Monthly Report

Vol.153 / 2019 JAN

文部科学省「情報ひろば」新体操競技の体験イベント

目次



鈴木大地長官と記念写真

2月4日（月）文部科学省「情報ひろば」にて新体操競技の体験イベントを開催しました。今回の企画は1月4日（月）～4月19日（金）まで文部科学省「情報ひろば」旧省庁3階企画展示室で「世界に触れる」～東京2020オリ・パラ事前合宿ベラルーシ新体操ナショナルチームへの協力～と題し、ホストタウンとなっているベラルーシ共和国の取り組みを展示しており、そのイベント企画として催したものです。新体操競技の魅力について多くの方々に体験して頂くことで東京2020オリンピック・パラリンピックの普及や啓発の一助になればと実施しました。

この体験イベントでは鈴木大地スポーツ庁長官にもご来場いただき、河野未来講師による映像を使った新体操の紹介を行い、手具体験コーナーでは新体操競技部の阿部楓花さん（体育4年）・川口千尋さん（体育3年）が、訪れた方々を相手に、リボンやフープなどの扱いの手ほどきを披露、鈴木長官を始め多くの方々に新体操の手具の扱いの難しさと、逆にちょっと慣れた後の扱いの醍醐味を体験いただきました。



ボールの手ほどきを受ける鈴木大地長官



多くの方々にご参加いただきました

・文部科学省「情報ひろば」新体操競技の体験イベントを開催しました	1
・文部科学省にて本学の取り組みを展示しています！ ・台東大学が蔵王スキー研修を実施しました ・エアリアル競技（フリースタイルスキー）の千葉陸人選手（スポ情2年）がユニバーシアード日本代表に選出	2
・DAN DAN DANCE & SPORTS 15 th を終えて	3
・4年連続なでしこリーグへ！女子サッカー部の越後希波選手がなでしこリーグ2部ニッパツ横浜FCシーガルズに入団 ・サッカー部金子優希選手（GK）のJ3ヴァンラーレ八戸FC入団会見を開催	4
・楽天イーグルス チーム戦略室室長が情報分析の講義を行いました ・「ながら見守り隊」感謝状贈呈式について ・男子バレーボール部：V1リーグチームに契約アナリストとして帯同	4
・就活キックオフセミナー決勝戦を開催しました ・部・サークル活動における意見交換会を開催しました	5
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.10 ・本学園仙台地区キャンパス再整備（川平再整備事業）の「地鎮祭」を行いました	6

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

文部科学省にて本学の取り組みを展示しています！

文部科学省「情報ひろば」企画展示で、本学とベラルーシ共和国の取り組みを展示しています。

○テーマ「世界に触れる」～2020東京オリパラ事前合宿ベラルーシ新体操ナショナルチームへの協力～

○展示期間：平成30年1月4日（金）～平成31年4月19日（金）

○開館時間：月曜日～金曜日 10時00分～18時00分
（入館は17時30分まで 土日祝は休館）

○展示会場：文部科学省情報ひろば「企画展示室」 ※入場無料
（東京都千代田区霞ヶ関3-2-2 旧文部科学省庁舎3階）

○主な展示物

パネル

- ・ベラルーシ共和国について
- ・ベラルーシ共和国と本学についての取り組み

写真

- ・新体操公開演技会写真

展示物

- ・2015年世界大会使用ユニフォーム
- ・事前合宿公開演技会DVD
- ・新体操各種目道具（ボール・フープ・クラブ・リボン・ロープ）

○展示背景

2020東京オリンピック・パラリンピックに向け、仙台大学は、2017年6月に、ベラルーシ共和国のホストタウンとして協定を宮城県柴田町、白石市、ベラルーシ体操協会の4者で締結し、2017年から2020年にかけての事前合宿を実施する予定としています。これまでに行われた、過去2回の事前合宿中の公開演技会などをパネルや映像で「世界の美」として紹介し、2002年から始まった、これまでの本学とベラルーシ共和国の国際交流などの経緯についても掲示していきたいと考えております。

実際に「見て、聞いて、触れて」頂き、2020東京オリ・パラの普及や啓発の一助になれば幸いです。皆様のご来場お待ちしております。



台東大学が蔵王スキー研修を実施しました

台東大学体育学院の温先生一行が、毎年実施している蔵王スキー研修で、仙台にやってきました。台湾では経験できないスキー体験を約一週間の行程で山形蔵王で実施します。名取教授の音頭で、仙台大学留学の経験があるOB・OG、現在、仙台大学に留学中の学生が集合し、スキー談義に花が咲きました。来週の仙台大学での柔道交流試合、学生の長期研修派遣、3月の陸上競技部投擲部門の合宿訪問と、台東大学との交流が佳境に入る直前のひとときでした

<報告 朴澤理事長・学事顧問>



エアリアル競技（フリースタイルスキー）の千葉隆人選手（スポ情2年）がユニバーシアード日本代表に選出

1月22日（火）にエアリアル競技（フリースタイルスキー）の千葉隆人選手（スポーツ情報マスメディア学科2年）が3月2日（土）～3月12日（火）まで行われる第29回ユニバーシアード冬季競技大会（クラスノヤルスク/ロシア）日本代表に選出されました。

エアリアル競技（フリースタイルスキー）は約55mの助走路を滑走し、キッカーと呼ばれる、高さ2m～4.2mのジャンプ台をジャンプし、空中で宙返りや捻りを行い着地までの演技で得点を競う競技です。

1月30日（水）には遠藤保雄学長を表敬訪問し、競技の魅力や開催国であるロシアについてお話申し上げ、「初めてのユニバーシアードですが、予選の2本をしっかりと着地し、決勝に進むことが目標です」と抱負を述べてくれました。

今後は大会に向けて地元でもある北海道で練習を行う予定です。



右から2番目千葉隆人選手（スポ情2年）

DAN DAN DANCE & SPORTS 15thを終えて



オープニング 実行委員と有志の学生



公演を終えて…実行委員との記念撮影

本大学が主催しているダンス公演DAN DAN DANCE & SPORTS(以下、DAN DAN DANCEと略す)は今年で15回目を迎え、2019年1月26日(土)にえずこホールで開催しました。節目となるこの公演で実行委員長を務めることになった私は、実行委員と共に会場を盛り上げ、観客をも巻き込んだ最高の公演になることを目標に日々、DAN DAN DANCEの事を考えていました。

昨年度のDAN DAN DANCEは、実行委員でありながら出演者としてダンスをし、自らの手で公演を盛り上げていきたいという実行委員一同の強い思いにより実現したものです。非常に楽しく、達成感と充実感に満ち溢れ、踊ることの楽しさを身もって感じる事が出来ました。私自身、ダンスの経験が殆どありませんでしたが、DAN DAN DANCEがきっかけとなり、ダンスそのものや鑑賞することが好きになりました。私がこのような体験をしたことで、DAN DAN DANCEを通してより多くの方々にダンスの魅力を知ってほしいという考えや、実行委員長としての責任感から、今年度のDAN DAN DANCEにかける思いが非常に強く、加えて、事前準備では自分たちのダンス練習をしながら、座席表やタイムスケジュール等の資料作成や会場での打ち合わせを行い、公演がスムーズに進行出来るよう、当日に備えました。

本番当日、よい緊張感に包まれた会場の中でDAN DAN DANCEが開演しました。今年度の全体テーマは、「想創」(そうぞう)という想像と創造を掛け合わせた言葉にし、出演者の方々が「創造」した作品を「想像」しながら鑑賞して頂きたいという願いを込めました。また、全体テーマとは別に「Favorite～私の好きな言葉～」という作品テーマを設け、出演者の方々に作品を創作して頂きました。出演者は踊ることを通して自分たちの意志や思いを身体で表現し、観ている観客に伝えます。そして観客もただ「見る」のではなく、その作品にはどのような思いが込められているのかを考えながら「観る」ことに繋がりたいと考えました。私は、この関係を築き上げることこそが、ダンスの魅力の1つであり価値であると思います。因みに今年度、私達実行委員はオープニングでは「最高のショーの始まり」、エンディングでは「自分らしさ」について作品を通して伝えようと披露し、このような私達の想いを少しでも観客の方々に感じてもらうことが出来ていたのであればと願っています。



公演前、誘導について確認し合う実行委員

私は今回の公演で、出演者のみならず観客の方々も非常に楽しそうに作品に見入っていらしたように感じており、今年度のDAN DAN DANCEも大成功を収めることが出来た証として、これからもDAN DAN DANCEを続けていく上でのモチベーションにもなるよう願っています。

一方、実行委員の仕事振り返ってみると反省すべきことがいくつかあります。わたしたちは出演者であり実行委員でもあるという難かしい立場ではありますが、あくまでも実行委員として講演を運営・サポートし、それがしっかり出来たうえでダンスをするという、“バランスの取れた体制づくり”が大切だと感じました。私を含め4年生は今回をもって卒業となりますが、反省点を次に活かし、後輩たちが来年より良い成果をあげられるようこれからもサポートしていきます。

伝統ある本公演の重みを感じながら、有意義な時間を多くの方々と共有できたことは私の誇りであり、DAN DAN DANCEを通し、仙台大学がダンスの楽しさや魅力をみなさんに伝える発信源となるよう願っています。

DAN DAN DANCE & SPORTS 15th 実行委員長
運動栄養学科4年 坂本 想

4年連続なでしこリーグへ！女子サッカー部の越後希波選手がなでしこリーグ2部ニッパツ横浜FCシーガルズに入団

この度、女子サッカー部の越後希波選手がなでしこリーグ2部ニッパツ横浜FCシーガルズに入団が内定しましたのでお知らせいたします。



【越後希波（えちご きなみ）選手プロフィール】

- ポジション：GK
- 生年月日：1996年8月22日
- チーム歴：イーグレット岩内（小学）－小樽コルサリオ（中学）－北海道文教大学明清－仙台大学

【遠藤保雄学長のコメント】

本学、女子サッカー部の「守護神」であり、主将を務めた越後希波選手がなでしこリーグ2部ニッパツ横浜FCシーガルズに入団が内定しました。1年生の時から全日本大学女子選抜やユニバーシアード日本女子代表候補へ選出され、本学でもGKのレギュラーポジションを1年生から堅守してきた逸材。日本のみならず世界に羽ばたく選手になるよう期待しています。これまで育てて下さった関係各位に御礼申し上げます。

【黒澤尚監督（講師）のコメント】

おかげ様で今年も女子サッカー部からなでしこリーグへ選手を送ることができます。これは越後に小学から高校まで携わっていただいた指導者の皆様の指導の賜物です。そして、何よりも越後本人が目標の達成に向けて努力し続けた結果であると実感しております。越後には日本を代表する選手へさらに成長してくれることを期待しています。また、私自身も今預かっている選手達が社会で逞しく生きていけるように責任を持って指導・教育していく所存です。

【越後希波選手のコメント】

「この度、ニッパツ横浜FCシーガルズに加入することができ、大変嬉しく思います。これまで支えて下さった方々に恩返しができるようプレーで体現します。そして、新戦力として自分ができることを最大限に出し切りニッパツ横浜FCシーガルズのゴールを守ります。応援宜しくお願い致します。

サッカー部金子優希選手（GK）のJ3ヴァンラーレ八戸FC入団会見を開催

1月10日（木）サッカー部金子優希選手（GK）のJ3ヴァンラーレ八戸FC入団会見を開催しました。

会見で金子選手は「プロサッカー選手になるのが夢でした。次の夢は世界で活躍する選手になることです」と力強く抱負を述べ、本学卒業生でヴァンラーレ八戸FCの菅原公平統括本部長より「技術はもちろんですが、彼のまじめな人間性も素晴らしく、大いに期待しています」とコメントを頂きました。

また遠藤保雄学長は「本学を背負ってヴァンラーレ八戸FCに入団できることは幸せなことであり、同時に責任も重大であると思います。今後の活躍を期待しています」とエールを送り、サッカー部監督の吉井秀邦准教授は「競争の中でもがきながらも切磋琢磨し、その中でもコンスタントに力を発揮してきたことは、彼の人間力だと思います。これを武器としてプロでも活躍してほしいです」と述べました。これで本学サッカー部は9年連続でJリーガー選手の輩出となり、GKとしては初の快挙となりました。



楽天イーグルス チーム戦略室室長が情報分析の講義を行いました

1月9日（水）「スポーツ情報戦略論」（担当教員：石丸出穂スポーツ情報マスメディア学科長）の授業に、東北楽天ゴールデンイーグルス チーム統括本部チーム戦略室 村田慎吾室長に特別講師としてお越しいただき、楽天イーグルスにおける情報分析に関し、講義をいただきました。

現在に至るまでのご自身の経歴から始まり、プロ野球球団における情報分析業務の役割と位置づけや、スポーツアナリストの仕事の概要等、情報分析に関して多岐にわたる内容をお話しいただきました。

講義の最後には質疑応答の時間を設け、「野球の試合の勝敗にもっとも影響を与えるデータは？」といった質問も出るなど聴講した学生は熱心に講義を聞き入っていました。

聴講した学生からは、「アナリストの仕事を具体的に知ることができた」、「情報分析が球団の中でどのように役に立っているのかが理解出来た」といった感想があがっていました。

<報告 池田敦司教授>



講義中の様子

「ながら見守り隊」感謝状贈呈式について

1月18日（金）大河原警察署において感謝状贈呈式が執り行われ、本学の「ながら見守り隊」の活動に対し感謝状を頂きました。このことは大変光栄であり感謝の気持ちでいっぱいです。

「ながら見守り隊」は、昨年、卓球部女子学生2名が町内の児童を保護したとして表彰され、新聞報道もあり学生の間でこのような日常的における気配りが地域の安全・安心に役立つことを認識するきっかけとなりました。

それ以降、学内において組織的に学生の生活を守る学生部、ボランティア活動を支援する学生支援センターが協力し、社会貢献としての対応、認識と気運が高まり、「さりげない・日常の見守り活動」として、本学約2500人＝5000の目で地域を見守ることの意義・大切さを改めて認識し、活動に取り組んでいます。

今後も大河原署や地域と連携を図りながら取り組んでいきたいと思います。「ながら見守り隊」の活動は、本学の学生にとっても良い経験になると確信しております。

<大山さく子学生支援センター長>



感謝状を遠藤保雄学長に渡す、大山さく子学生支援センター長



表彰された卓球部女子学生2名

男子バレーボール部：V1リーグチームに契約アナリストとして帯同

本学男子バレーボール部で、アナリストとして活動している中釜智哉さん（スポーツ情報マスメディア学科3年）が現在V.LEAGUE Division1（V1リーグ）に所属している大分三好ヴァイセアドラーに契約アナリストとして帯同しています。

中釜さんはチームに帯同し、試合でのゲーム分析やデータ収集を通してアナリストとしてのレベルアップに励んでおり、今回の研修で学んだことを本学男子バレーボール部ひいては今後の様々な活動にて還元することでチームの更なる強化とスポーツ情報分野の発展に貢献してほしいと思います。

○中釜智哉さんのコメント

「トップリーグはレベルが高く、中々勝利に貢献することは難しく苦労しますが、勝った時の感動と嬉しさは言葉には表せません。トップレベルを経験しそこで得られるものがたくさんあり、仙台大学男子バレーボール部に還元していきたいです。」

<報告：男子バレーボール部>



アナリストとして活動している中釜智哉さん

就活キックオフセミナー決勝戦を開催しました



専門講師の講和の様子



セミナー中、真剣に取り組む受講生様子

1月23日（火）に3年生を対象とした「就活キックオフセミナー決勝戦」を開催しました。

冒頭に学長から激励いただいた後、就職関連業者の専門講師から今回のテーマである「合説直前セミナー～合同企業説明会の回り方・マナー～」について、合同企業説明会の基本的なことから、企業が何を求めているのか、話を聞くポイント、さらにはお願い言葉や立ち振る舞いなどのマナー等の講話を受けました。

受講生からは、いよいよ本格的に始まる就職活動に向けて、真剣に取り組む姿勢が見受けられ「説明会へ参加するマナーや準備の仕方を学べてよかった」「企業選択のポイントを参考にしていきたい」等の感想が寄せられました。

今後も、入試創職室では3月の解禁に向けて3年生全員を対象とした個人面談やSPI対策講座などを実施します。その他、学内合同企業説明会、首都圏就職弾丸ツアーなども企画しているので3年生の積極的な参加をお待ちしています。

<報告：入試創職室>

部・サークル活動における意見交換会を開催しました



意見交換会の様子

1月22日（火）本学LC棟1階フロアにおいて、「部活動・サークル活動における意見交換会」が開催されました。この意見交換会では、仙台大学の部活動をより発展させていくための意識共有と意見交換が目的で、本年度に設立されたスポーツ局が主催し実施しました。

会場には43の部・サークルからの部長、監督、コーチに加えて、部活動を支える「アスレティックトレーナー」「ストレングス&コンディショニングスペシャリスト」「運動栄養サポート研究会」「スポーツ情報サポート研究会」の4分野から46名の関係者が出席しました。

交換会では、鈴木スポーツ局長の司会進行により、朴澤泰治理事長・学事顧問の挨拶に始まり、遠藤保雄学長の挨拶に続いて、大学スポーツの活性化に向けた内外の取り組みに関する報告がなされました。

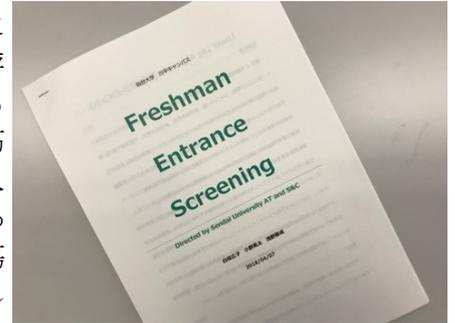
最初に、「大学スポーツ協会（UNIVAS）の設立と加盟大学に提供すること」、続いて仙台大学のスポーツ戦略として「競技力の向上に向けたTop Athlete Group戦略」「部活動運営の充実化を目指すMaking Career Program戦略」の方針が示され、それに対して各部・サークル活動の代表者から意見・感想や改善提案等、多くの意見が出され活発な意見交換会となりました。

今回が初の試みとなりますが、今後もこのような意見交換を積極的におこなってまいります。

<スポーツ局>

①新しい取り組み、FESについて

明成高校には毎年400名弱の生徒が入学し、多くの生徒が運動部活動に所属します。川平ATはスポーツ傷害の対応を日々行っていますが、傷害評価をするときに「この状態では怪我が起きても仕方がなかった」「起こるべくして起こった怪我」と感じる事が頻繁にあります。柔軟性不足、筋肉量不足、筋力不足や不利な骨形態は怪我の要因になりますが、生徒本人たちや指導者はこの傾向を知らないまま練習していることがほとんどであり、弱点を知らず改善されることがないまま競技練習を重ね、スポーツ傷害が発生してしまいます。私達は長い間この現状の打開策を考えていました。そして「Freshman Entrance Screening」”FES”（フェス）を実施することを決めました。FESはいわゆるフィジカルチェックのことで、怪我に繋がりにくい要因を評価し本人と顧問に知らせ、その要因の改善方法を競技練習と同時に行わせることが特徴です。近年は多くのプロチームや体育大学所属チームが取り入れているAT・S&Cやフィジカルチェックですが、高校レベルではAT・S&Cはおろか、メディカルチェックは普及していません。だからこそ仙台大学がサポートする明成高校でいち早くこのシステムを取り入れ、高校生の競技生活を充実させ大学レベルへ繋げていく体制を整えたいと考えました。また、FESを実施することで仙台大学が高大連携の最先端を走るにふさわしい施設と人材があることを具体的に示していきたいと感じています。項目は体組成成分測定、下肢アライメントチェック、足趾筋力、下肢柔軟性、下肢基礎筋力、全身動的可動性、そして体幹動的安定性です。現在は来年度4月に実施するために準備を進めています。



本学園仙台地区キャンパス再整備(川平再整備事業)の「地鎮祭」を行いました



地鎮の儀を行う、朴澤理事長・学事顧問



完成イメージ

1月29日（火）本学園仙台地区キャンパス再整備事業(仙台市青葉区川平)の安全を祈願し、地鎮祭がおこなわれました。

本学園（設置校 仙台大学、明成高校）は開学以来、建学の精神「実学と創意工夫」を掲げ、幾多の時代変動の中を歩み、2019年5月に創立140周年の開学記念日を迎えます。

本学園はさらなる高みを目指し、本学園仙台地区キャンパスの再整備をおこない、自然・地域との共生を目指し、防災安全に配慮し、生徒・学生の各々の高大接続その他の新しい学びが実現できる教育環境の整備・充実を目指します。

今後の予定については

①第一期工事

明成高等学校の校舎完成予定（2020年11月完成予定）

②第二期工事

仙台大学川平キャンパス内施設の充実（高大連携教育の充実）

車道にて分断されているキャンパスを連絡橋で結び一体化の実現

③第一、二期通期工事

防災の観点から、表土排水加工、地下貯水槽設置、崩落懸念のある擁壁の施設活用に応じた新設、撤去実施

鳥の鳴き声、古来自生する松等木々に満ちた自然共生キャンパスの実現

となっています。